

Course number		U-LAS70 10001 SJ50			
Course title (and course title in English)	ILASセミナー :アートとコミュニケーションデザイン		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Management Program-Specific Associate Professor,REN GYO	
	ILAS Seminar :Art and Communication Design			Graduate School of Management Program-Specific Assistant Professor,SUENAGA ERIKO	
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks 1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester		Quota (Freshman) 25 (15)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods Wed.5
Classroom	21, Yoshida-South Campus Bldg. No. 1			Language of instruction	Japanese
Keyword	デザイン学関連 / コミュニケーションデザイン / アート / コミュニケーション / 演劇				
[Overview and purpose of the course]					
<p>不確実性が高く将来の予測が困難な現代社会においては、個人およびあらゆる規模の組織が、学び続け、変革し続けることが求められている。しかもそれは、高度に社会化された現代では「他者との協働」によって行われなくてはならない。そして、「他者」は多様化しており、「多様性の理解」も極めて重要である。</p> <p>そんな時代に「アート」が注目を集めている。アートには、「ゼロから何かを作り出す」や「価値の評価が困難（役に立つのか立たないのかわからない）」といった性質がある。これを、社会のあらゆるシーンで活用しようとする世界的な潮流がある。一方で、「役に立つのか立たないのかわからない」という性質を持つ「アート」を社会化する（何かの役に立つようにする）ためには、デザインが必要でもある。デザインという幅広い領域の中で、他者との協働を志向する上では、とりわけ「コミュニケーションデザイン」が重要である。</p> <p>アートといっても、美術、工芸、音楽、映像、身体表現芸術など、多種多様なジャンルがある。この授業では、担当者の専門領域である身体表現芸術を中心としつつ、ゲスト講師を招聘して多様なジャンルのアートを体験してもらう予定である。アートを媒介とした他者との協働を実際に体験してもらい、省察と議論を通じて、その方法を学んでいく。アートを介すると自分や他者がどんな反応をするのか、コミュニケーションデザインとはどのようなアプローチか、アートをビジネス等のシーンにどう活かせるのか。このような問いについて、体感しながら議論してもらう。</p> <p>当講義はゲスト講師が担当する回がある可能性があります。</p>					
[Course objectives]					
<p>(1) アートを媒介した他者との協働を実際に体験し、その特性を理解する。知識として理解するのみでなく、具体的な状況における自らの体験に即して理解する。</p> <p>(2) グループで「学び続け、変革し続ける組織」をつくるためのデザインを考案・実践することを通じて、アートとコミュニケーションデザインの基本的な方法を実践的に習得する。</p>					
[Course schedule and contents]					
<p>授業計画と内容は、学習者が能動的に活動し、課題の探索、発見、解決を試みるPBL/FBL型(問題発見型/問題解決型)で進行するものとし、以下を予定している。ただし、受講生の様子を踏まえ、必要に応じて動的に計画を見直しながら授業を進める。なお、外部との交流の機会を設定する可能性もある。</p>					
<div style="text-align: right;">Continue to ILASセミナー :アートとコミュニケーションデザイン(2)</div>					

第1回/第2回/第3回 導入、チームビルディング
第4回/第5回/第6回 アートを媒介とした協働活動のアクティビティ体験とデザインの解説
第7回/第8回/第9回 グループワーク : 小作品の創作と発表及びディスカッション
第10回/第11回 アートを媒介とした協働活動のアクティビティ体験とデザインの解説
第12回/第13回/第14回 グループワーク : 「学び続け、変革し続ける組織」のためのデザイン実践と講評、及び、授業全体を踏まえた振り返り
第15回 フィードバック

当講義はゲスト講師が担当する回がある可能性があります。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

出席と授業参加 20%
グループワーク の取組 20%
グループワーク の取組 20%
最終レポート 40%

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

平田オリザ・蓮行 『コミュニケーション力を引き出す』(PHP新書,2009) ISBN:456977105X
蓮行・平田オリザ 『演劇コミュニケーション学』(日本文教出版,2016) ISBN:4536600833
谷口忠太・石川竜一編著 『コミュニケーション場のメカニズムデザイン』(慶應義塾大学出版会, 2021) ISBN:4766427734

[Study outside of class (preparation and review)]

(任意で取り組んでいただきたい活動)
本授業をきっかけとして、劇場での観劇、美術館・博物館での鑑賞、小説の鑑賞など、普段は触れたことのなかったアート作品に触れる機会をもっていただければと考えている。

[Other information (office hours, etc.)]

事前にメールでアポイントメントを取っていただき、随時対応します。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。
Mail : reng.acgm@gmail.com
を@に変換してください

・何かしらのアートに触れたり、芸術作品を創作するという体験は、世界的に注目されている一方で、「わざわざ機会を設定する」ことなしにはできない体験でもある。個人創作もなかなかできない経験だが、グループでの共同創作はなおさら希少な機会である。大学で学ぶという貴重な学習機会に、ぜひアートにも取り組んでいただきたい。

・履修要件は特にない。芸術活動一般や身体表現芸術(演劇、ダンスなど)の経験等も問わない。

ILASセミナー : アートとコミュニケーションデザイン(3)

[Essential courses]